

## 神奈川

究極のクールジャパン・コンテンツといわれる「忍者」。戦国時代から忍者と縁がある小田原市は、全国の関係自治体とも連携し、忍者を観光資源とした街おこしを進めている。キャッチコピーは「東京に一番近い忍者の里」。2019年のラグビーワールドカップや20年の東京五輪を見据えて、インバウンド(訪日外国人旅行)誘致にも力を入れ始めた。

忍者というと伊賀(三重県)や甲賀(滋賀県)が有名だが、小田原にも戦国時代、後北条氏に仕えた「風魔一党」がいた。一党の頭領は代々「小太郎」を名乗り、五代目は身の丈7尺2寸(2メートル16センチ)もある偉丈夫だったと伝えられている。風魔一党は諜報や後方かく乱作戦を駆使し、甲斐・武田軍を同士討ちに追い込むなどの手柄を上げたという。

こういった歴史を踏まえて、小田原市は2012年に「忍者サミットin小田原」を開き、小田原、伊賀、甲賀の3観光協会名で「忍者の里共同宣言」を発表した。翌年から小田原城址公園を中心に「忍者の里 風魔まつり」を開催。今年も8月27、28日のまつりで、忍者クイズラリー、忍者オンステージ、忍者道場、小田原宿忍者茶屋などを催した。

この間、日本記念日協会が14年に2月22日を「忍者の日」に認定。また、インバウンドの急増により、海外にも「NINJA」が知られるようになったのを受けて、「日本忍者協議会」が昨年設立された。発起人は忍者に関係する9自治体の首長らで、神奈川県内からは黒岩祐治県知事と加藤憲一小田原市長が加わっている。

小田原市は昨年12月、初の「観光戦略ビジョン(仮称)」の骨子案をまとめ、現在約450万人の年間入り込み観光客数を2022年までに700万人に増やす目標を掲げた。それを達成するため、戦国時代に活躍した後北条氏や風魔一党など城下町の歴史・文化にスポットを当て、観光資源として活用する必要性を指摘。

ビジョンに盛り込まれた施策のうち、小田原城の魅力向上については、先取りする形で昨年7月か



風魔一党に扮した役者と忍者衣装で記念撮影する外国人の子どもら  
=今年8月の「忍者の里 風魔まつり」

## 小田原市が「忍者」で街おこし

ら天守閣のリニューアル工事を行い、今年5月に再オープンした。5層(階)に分かれた展示スペースのうち、第2層を「戦国時代の小田原城」にあて、5代にわたって城主を務め、風魔一党とも関係が深い後北条氏を“特集”した。

一方、忍者ポーズで知られるラグビー日本代表の五郎丸歩選手が昨年12月、日本忍者協議会から「マスター・オブ・ニンジャ」に選ばれたのを受け、小田原市はラグビーと忍者の里をセットで売り込むことも計画している。同市は、横浜市で決勝戦が行われる「ラグビーワールドカップ2019」で、日本代表の合宿地になることが決定しているからだ。

小田原市は、五郎丸選手の人気に便乗してワールドカップの観戦客を市内に呼び込み、東京から日帰り圏に忍者の里があることをPR。その勢いを駆って、後北条氏を陰で支えた風魔一党を“全国区”の観光資源に育て上げ、翌年の東京五輪では小田原城見学や忍者体験などをツールに、本格的にインバウンドを誘致する戦略を描いている。